

GMB株式会社

2020年3月期決算説明資料

(2020年5月25日 Webサイト掲載)



(電動ウォーターポンプ)

証券コード 7214

<https://www.gmb.jp>

注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満切捨て記載しております。



I. 2020年3月期実績

II. 今後の対応

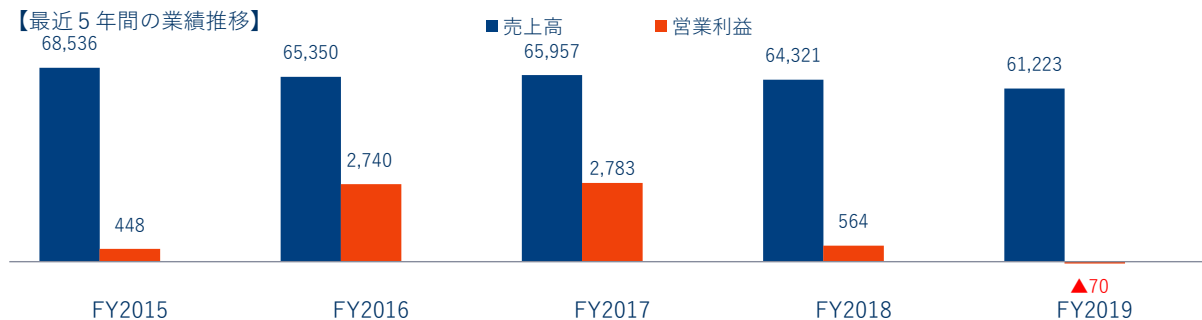
2020年3月期 損益実績



(単位：百万円・%)

	前期		当期		前期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	増減額	増減率(%)
売上高	64,321	(100.0%)	61,223	(100.0%)	▲3,098	(▲4.8%)
売上総利益	10,115	(15.7%)	9,222	(15.1%)	▲892	(▲8.8%)
営業利益	564	(0.9%)	▲70	(▲0.1%)	▲634	—
経常利益	426	(0.7%)	▲313	(▲0.5%)	▲740	—
純利益	226	(0.4%)	▲910	(▲1.5%)	▲1,136	—
EPS(円)	43.37		▲174.21			

【最近5年間の業績推移】

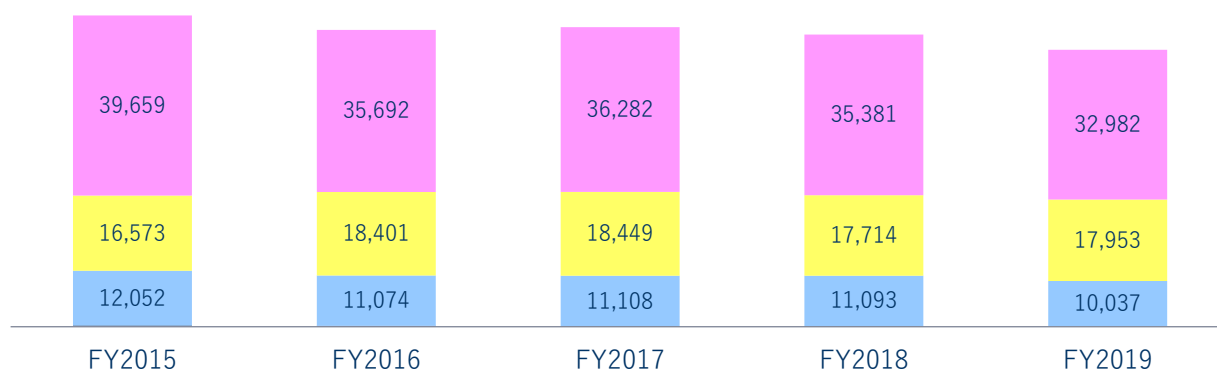
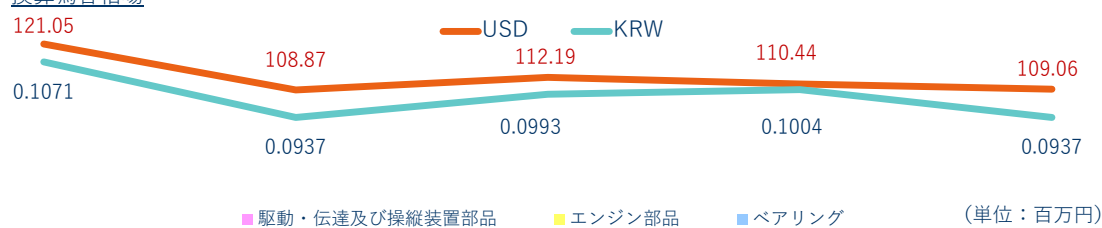


- 3 -

売上高の品目分類別実績推移



換算為替相場



駆動系は、欧州向けの新車用ユニバーサルジョイントや韓国の新車用バルブスプールなどの販売が減少した。エンジン部品は、韓国の新車用電動ウォーターポンプの販売や欧州の新車用ウォーターポンプ等が増加した一方で、韓国の新車用ウォーターポンプや、米国の補修用ウォーターポンプなどが減少した。

- 4 -

セグメント実績推移①

日本・米国



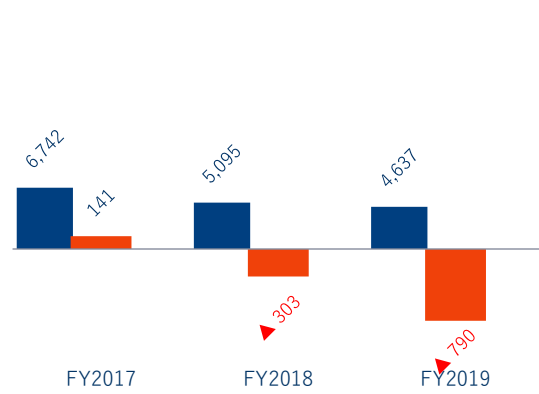
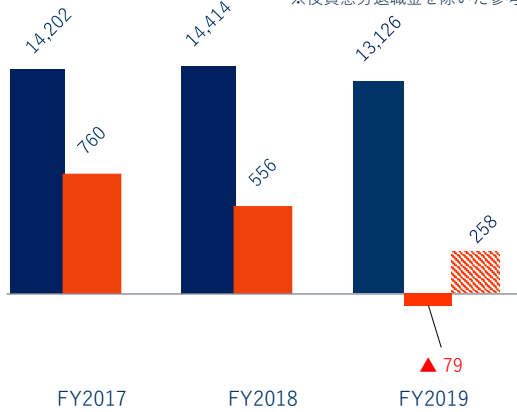
※セグメントはグループ各社の所在地による

(単位：百万円)

日 本

米 国

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ▨ 営業利益(※)
※役員慰労退職金を除いた参考値



欧州向け新車用部品の輸出が減少したことに加えて、ユーロ建て輸出取引の円高ユーロ安による採算悪化の影響や、役員退職慰労金を含む人件費の増加などの結果、減益。

厳しい競争環境が継続する中、大手販売先に対する取引の採算改善が図れなかったことに加え、資産評価や関税引き上げによって費用が増加したことなどにより、赤字拡大。

セグメント実績推移②

韓国・中国

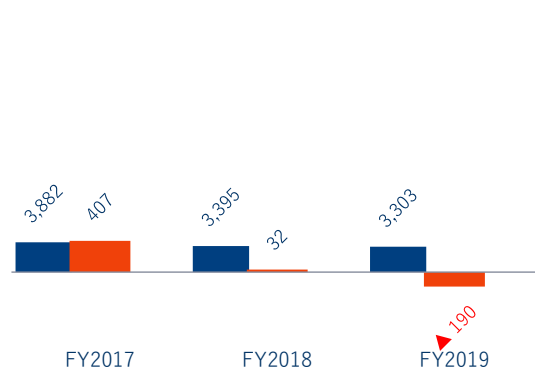
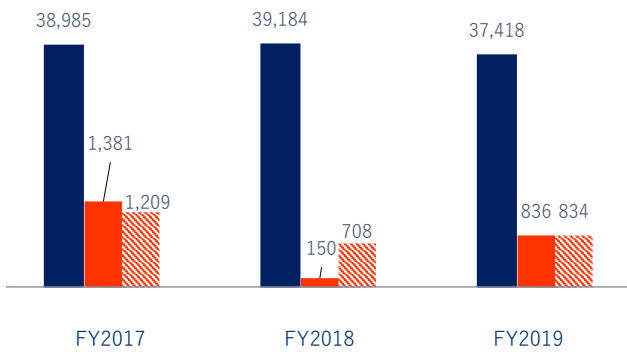


(単位：百万円)

韓 国

中 国

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ▨ 営業利益(※)
※退職給付債務の数理計算上の差異を除いた参考値



電動ウォーターポンプや等速ジョイントなどの新車用部品の販売増加やコストダウン努力により、新車用部品の単価変動による採算悪化や人件費の上昇などを吸収し、さらに退職給付債務の数理計算上の差異も減少したことによって増益。

中国新車用部品市場向けの等速ジョイントやウォーターポンプの販売減少に加え、環境対策費用の増加や新車用部品の単価変動の影響をコストダウン努力で吸収しきれず、営業赤字。

セグメント実績推移③ タイ・欧州

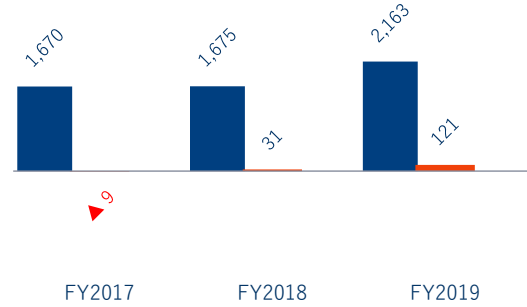
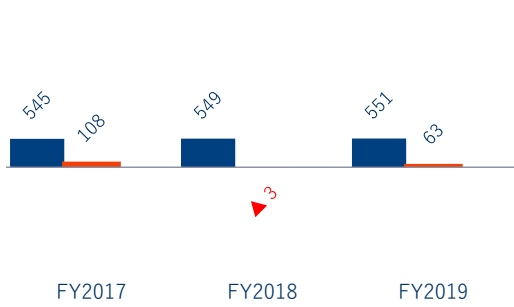


(単位：百万円)

タイ

欧州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



タイ国内販売は前年並みだったが、日本向けの補修用サスペンションパーツや欧州向けの新車用ウォーターポンプの生産量が増加したことなどにより黒字転換。

ルーマニア工場では欧州の新車用部品市場向けウォーターポンプが順調に推移し、加えて調達コストも削減したことより、増益。ロシア工場は、新車用部品の単価変動などにより減益。

セグメント実績推移④ 豪州



(単位：百万円)

豪州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



【GMB OCEANIA PTY.LTD 社屋外観】



【商品倉庫】



2019年10月にGMB OCEANIA PTY.LTD.を設立し、現在操業準備中。関連経費の支出のみ発生。

営業利益以下の増減要因



(単位：百万円)

	前期実績	当期実績	増減額
営業利益	564	▲70	▲634
営業外収益	494	501	6
（うち為替差益）	(9)	(-)	(▲9)
（うち持分法投資利益）	(142)	(47)	(▲94) ※1
（うちデリバティブ評価益）	(106)	(92)	(▲14)
（うち受取保険料）	(-)	(80)	(80)
（うち貸倒引当金戻入）	(21)	(75)	(54)
（うち製品保証引当金戻入）	(82)	(-)	(▲82)
営業外費用	632	745	112
（うち金融費用）	(570)	(643)	(73)
（うち為替差損）	(-)	(8)	(8)
経常利益	426	▲313	▲740
特別利益	25	38	12
特別損失	245	264	19
（うち減損損失）	(146)	(227)	(80) ※2
税引前利益	206	▲540	▲747
法人税等	148	457	308 ※3
少数株主持分損益	▲167	▲86	80
四半期純利益	226	▲910	▲1,136

※1
持分法適用会社の業績により変動

※2
韓国のAT部品工場や中国の南通工場、米国の機械設備等について収益性低下のため発生

※3
黒字の子会社における税金費用の負担

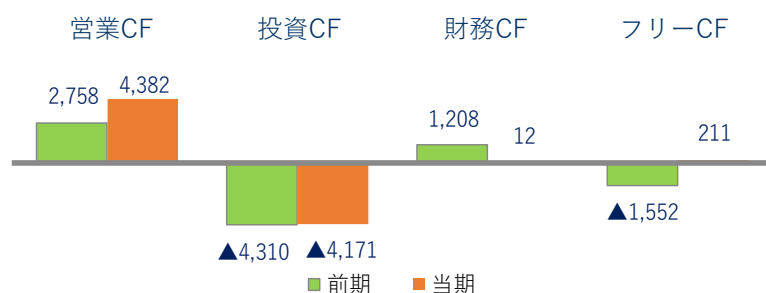
- 9 -

キャッシュフローの実績



(単位：百万円)

	前期	当期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	2,758	4,382	+ 1,624
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 4,310	▲ 4,171	+ 139
財務活動によるキャッシュフロー	1,208	12	▲ 1,195
フリーキャッシュフロー	▲ 1,552	+ 211	+ 1,763



【 当期の主な内訳 】

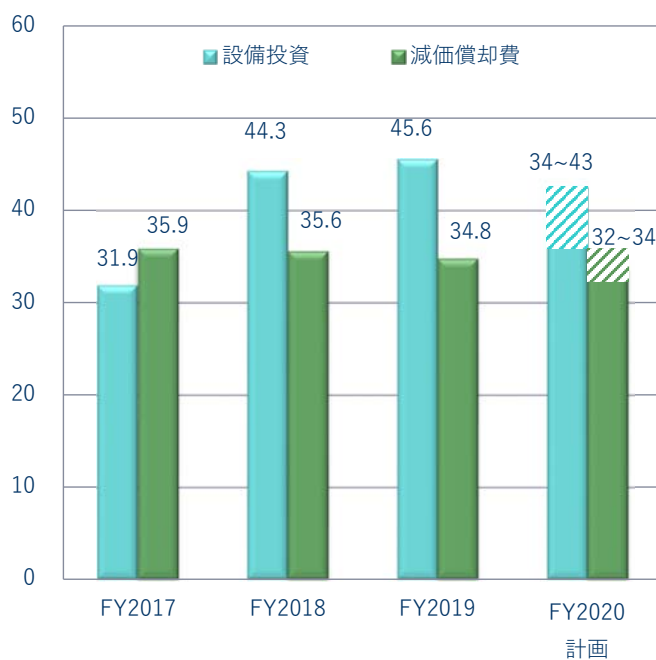
- 営業CF
 - 税金等調整前利益 ▲540 百万円
 - 減価償却費 3,480
 - 売上債権の減少 362
 - たな卸資産の減少 823
 - 仕入債務の増加 687
 - 法人税の支払額 ▲367
- 投資CF
 - 設備投資 ▲4,568
 - 投資有価証券売却 113
- 財務CF
 - 借入金の増加 666
 - 社債の減少 ▲271
 - 配当金の支払額 ▲208

- 10 -

設備投資・減価償却費



設備投資・減価償却費の推移



FY2020 主な設備投資計画の内訳

(単位：億円)

	投資額	主な内容
日本	3.5~6.0	維持・合理化
韓国	20.5~21.5	新規開発・増産等
中国	5.5~7.0	維持・更新等
タイ	2.0~6.0	維持等
欧州	2.5	増産
計	34.0~43.0	



I. 2020年3月期実績

II. 今後の対応

新型コロナウイルスによる影響



グループ会社の稼働状況

(2020年5月25日現在)

拠点	機能	状況	備考
日本	生産販売	通常稼働	4月・5月にそれぞれ1週間臨時休業実施。
米国	販売	一部制限	在宅勤務の導入に加え、現地当局指導の下、出荷業務等を継続。
韓国	生産販売	通常稼働	2～4月は中国からの調達の影響等で一時的に稼働停止や生産調整実施。5月に1週間主力工場での臨時休業実施。
中国	生産	通常稼働	1月末～3月にかけて一時的に稼働停止や生産調整実施。
タイ	生産	通常稼働	2～3月は中国・韓国からの調達の影響で一時生産調整実施。
欧州	生産販売	一部制限	3月末～4月に工場稼働停止。5月以降も稼働制限を予想。
豪州	販売	一部制限	外出制限等により本格稼働遅延。

- 13 -

電動化対応

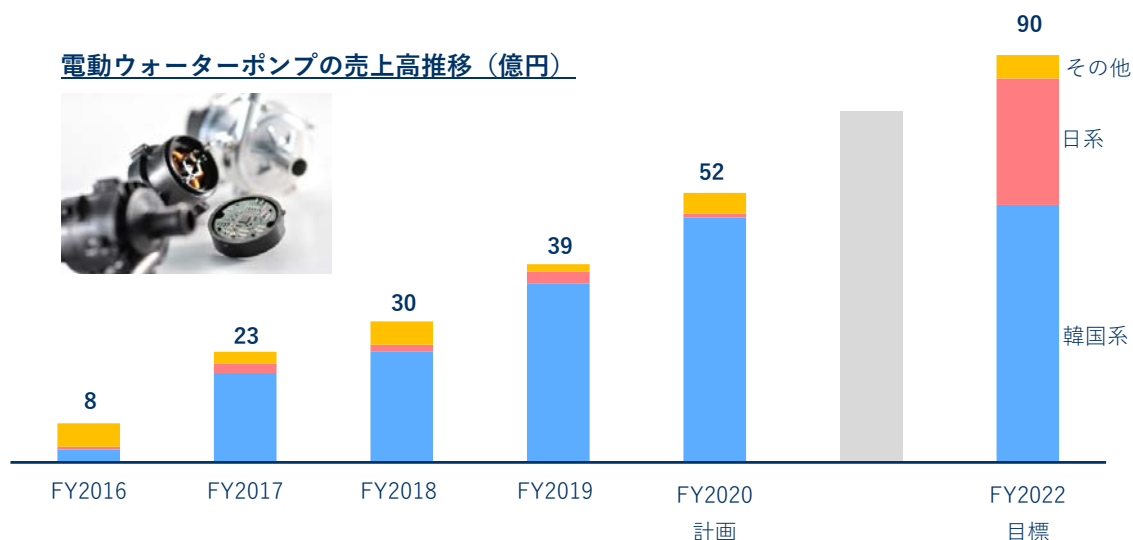


電動ウォーターポンプの拡販&新規開発

- 販売は計画をやや上回って進捗。
- FCV向けの製品も供給。

※下記計画・目標に新型コロナウイルス感染拡大の影響は織り込んでおりません

電動ウォーターポンプの売上高推移 (億円)



- 14 -

- 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 本資料および当社IRに関連するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

<お問い合わせ先>
GMB株式会社 経営管理室
電話 : 0745-44-1912
Email : ir@gmb.jp

GMB株式会社

事業内容説明資料 (2020年3月期)

(証券コード : 7214)

<https://www.gmb.jp/>

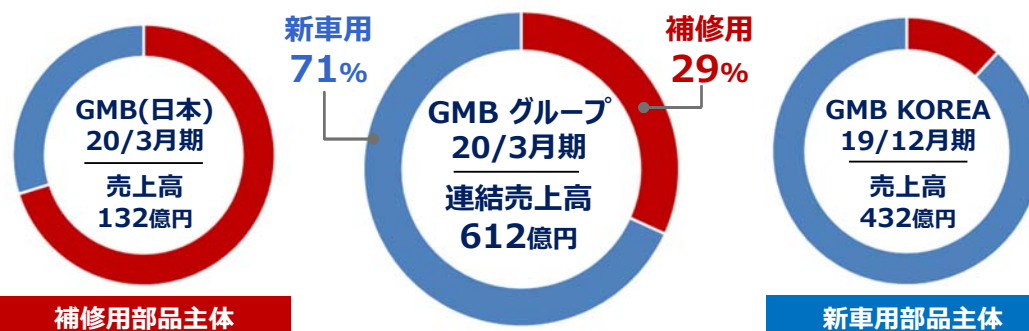
注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満で切捨して記載しております。



GMBグループの概要

商号	: GMB株式会社	売上高	: 61,223 百万円 (単体 14,274 百万円)
創業	: 1943年 (昭和18年)	営業利益	: ▲70 百万円 (単体 ▲1,209 百万円)
代表取締役社長	: 松波 誠	総資産	: 63,574 百万円 (単体 20,139 百万円)
従業員	: 2,628名 (単体 325名)	純資産	: 28,175 百万円 (単体 11,747 百万円)
所在地	: 奈良県磯城郡川西町大字吐田150番地3		
事業内容	: ユニバーサルジョイント、ウォーターポンプなどの自動車部品製造・販売		
グループ会社	: 13社 / 韓国③ (6工場・研究所)、米国① (2拠点)、中国④ (3工場・1拠点)、タイ② (2工場)、ロシア①、ルーマニア①、豪州①		

日韓GMBを主体に補修用部品と新車用部品に取組む独立系自動車部品メーカー



GMBグループの拠点と歴史



- 1943 (昭和 18) 年 : 大阪市生野区で「松岡精工所」創業
- 1962 (昭和 37) 年 : 株式会社浪速精密工業所設立
- 1976 (昭和 51) 年 : 米国子会社設立
- 1979 (昭和 54) 年 : 韓国子会社設立
- 1983 (昭和 58) 年 : 奈良工場 (現本社) 建設
- 1989 (平成 元) 年 : GMBに社名変更
- 1996 (平成 8) 年 : 中国子会社 (青島 GMB) 設立
- 2001 (平成 13) 年 : タイ子会社設立
- 2004 (平成 16) 年 : 大証二部上場
- 2006 (平成 18) 年 : 中国子会社 (即墨 GMB) 設立
- 2009 (平成 21) 年 : タイ関連会社 (TKG) 設立
- 2012 (平成 24) 年 : 韓国子会社が韓国証券取引所上場
- 2013 (平成 25) 年 : 中国子会社 (杭州 GMB) 設立
- 2013 (平成 25) 年 : 韓国子会社 (AG TECH) 設立
- 2013 (平成 25) 年 : 中国子会社 (南通 GMB) 設立
- 2014 (平成 26) 年 : ロシア子会社設立
- 2014 (平成 26) 年 : ルーマニア子会社設立
- 2017 (平成 29) 年 : 韓国子会社 (GMB ELPIS) 設立
- 2019 (令和 元) 年 : 豪州子会社設立



GMBの主要取扱製品

16%

ベアリング他
 テンショナー&アイドラー・産業用



55%

駆動・伝達・操縦装置用部品

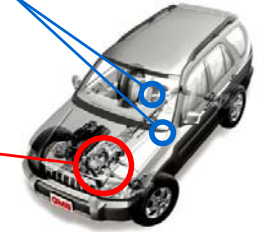
ユニバーサルジョイント 等速ジョイント

バルブスプール サスペンション

29%

エンジン部品

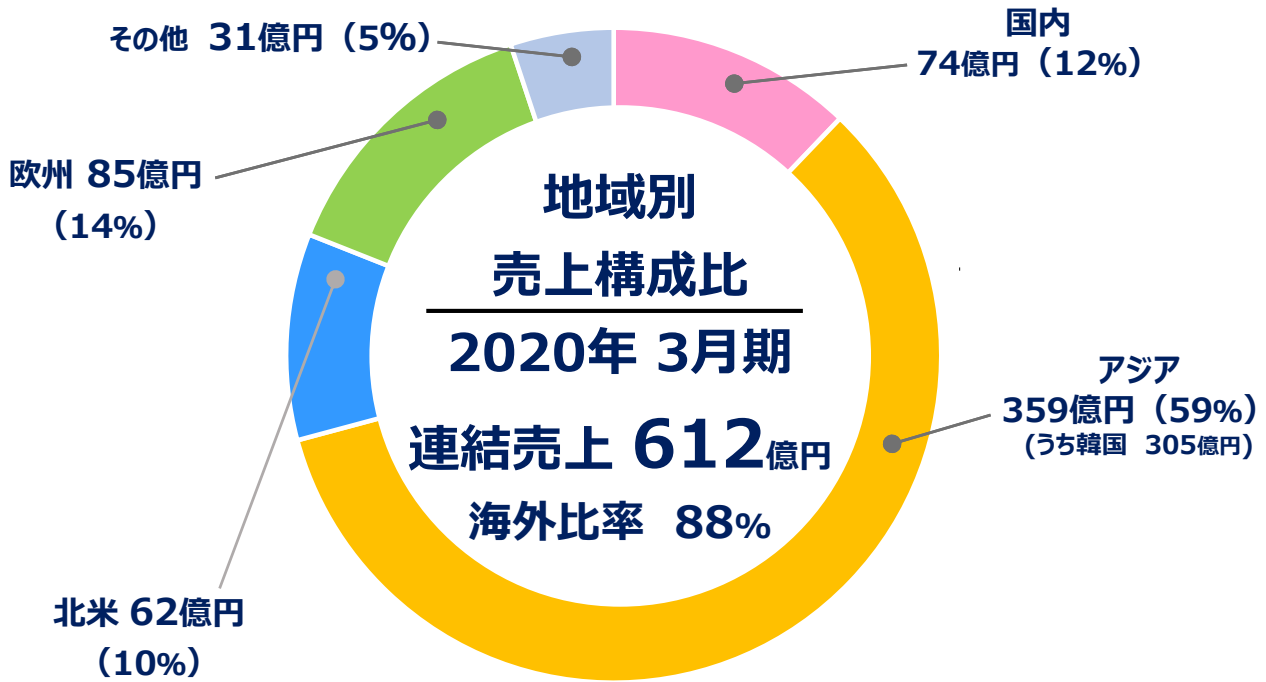
ファンクラッチ ウォーターポンプ 電動ウォーターポンプ



生産・販売ともにグローバルに展開 ①

販売は海外中心

(単位：億円)

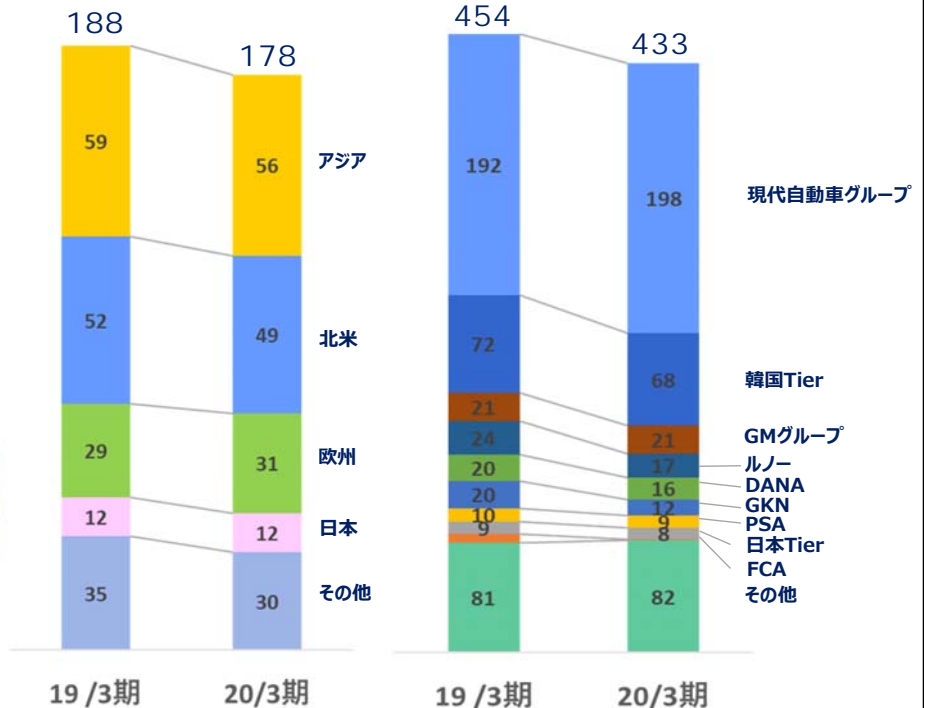
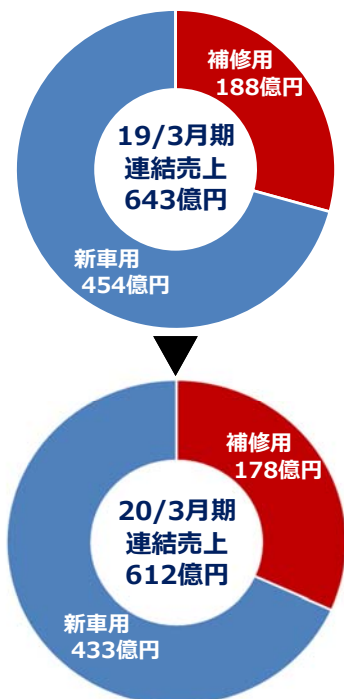


生産・販売ともにグローバルに展開 ②

補修用部品(地域別)

新車用部品(得意先別)

(単位：億円)



生産・販売ともにグローバルに展開 ③

